

学校名	研究課題	研究手法
大野町小学校	生活科・総合的な学習の時間	地域人材の活用

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 独自の教材の開発

- ・「金沢ふるさと学習」に大野町の地域の特徴が表れるように、カリキュラムを作成する。

(2) 重点2 地域人材の活用

- ・生活科や総合的な学習の時間において、地域人材を有効活用することができるよう成果と課題を整理し、明示する。

(3) 重点3 家庭や地域社会との連携

- ・地域と密着した学びへの理解と協力が得られるよう、生活科や総合的な学習の時間の授業や成果物を家庭や地域に公開し、研究を発展させる。

2 取組の検証

- 重点1** ・生活科・総合的な学習の時間の授業において、児童が学び合いながら考えを深めることができるよう大野町独自の教材を位置付けることができた。

【大野町独自の教材】

	独自の教材
1年	伝統芸能、伝承遊び
2年	伝統芸能、大野町たんけん
3年	伝統芸能、和菓子・茶道
4年	伝統芸能、偉人
5年	伝統芸能、大野川、大野醤油
6年	伝統芸能、大野の防災

- 重点2** ・教員アンケートでは、学習指導にあたって、校外施設・設備、地域の人材を活用した回数は、12月末日までに62回あった。昨年度の55回を上回り、地域の人材や施設・設備を積極的に活用できている。
- ・学校運営協議会では、「学校に貢献したい」「地域の人材をさらに活用してほしい」との意見が出された。さらなる活用が求められている。



- ・生活科や総合的な学習の時間において、地域人材を活用した際は、活用方法や課題・成果を学年の記録に残し、関係資料も学年ファイルに綴るようにした。

- 重点3** ・生活科や総合的な学習の時間の授業や成果物を家庭や地域に2回公開した。
- ・地域の方には、伝統芸能の指導や児童の衣装の着付けを依頼した。地域の協力があってこそ開催できる発表会である。発表会当日は、児童の姿を見てもらうことで、学習の成果を披露することができた。

	伝統芸能発表会 6/29
1年	曳山太鼓
2年	曳山太鼓（小ばい）
3年	加賀獅子舞（刀）
4年	加賀獅子舞（棒）
5年	豊年太鼓、早打ち太鼓
6年	山王悪魔払い



- ・保護者や地域の方へ、生活科や総合的な学習の成果を発表することができた。保護者にとっては、児童が地域について学び、考え、表現する学習をしていることを知るいい機会となった。保護者アンケートでは、児童が目的意識をもって学習していたと評価する感想が見られた。

	学習成果発表会 1/22
1年	できるようになったこと
2年	石川県に伝わる民話
3年	ふるさと大野
4年	金沢の偉人に学ぶ
5年	大野川・金沢港について
6年	2020パラリンピックに向けて ～大野っ子ができること～



- ・児童・保護者アンケートによる地域学習の評価は以下の通りである。
【肯定的評価の割合】

対象	設問	前期	後期（前期比）
児童	地域で学んだことをまとめ発表している	95%	95%（±0）
保護者	大野町の地域や人を生かした教育をしている	99%	100%（+1）

児童は、大野町について学んだことを発信しているという実感がある。保護者は、児童が地域の方から教わったり、大野町について学んだりしていることを十分理解している。

3 成果と課題

- 成果**
- ・地域の人材の活用が増えたことで、児童の地域に対する愛着が深まり、未来の地域参画につながった。
 - ・地域の人材から学ぶことは、児童の学習意欲の向上、専門的な知識や技能の獲得、学びの深まりにつながった。

- 課題**
- ・児童が大野町の自然や人・ものに積極的に関わって課題解決に取り組むことができるよう、教員は授業のねらいを明確にし、地域人材と育成を目指す資質・能力について共有し、十分な打合せをする必要がある。